



ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校 令和4年9月号

行動制限がない3年ぶりの夏休みが終わりました。今年は休み中の出来事をいろいろ聞かせてくれるかなと、2学期初回の指導を楽しみにしています。楽しかったことや好きなことを話す時の子供は、目も表情も本当にキラキラしています。そんな生き生きとした姿をたくさん見られるような教室であるよう、2学期も努力してまいります。よろしくお願いいたします。

相互作用の中で獲得する コミュニケーション



水鉄砲にたとえると...

一番大切なのは「伝えたい気持ち」を育てること
＝周囲のおとながよい聞き手であること

ことばを水鉄砲に例えてみると、水鉄砲の口から水が出る(＝ことばを言う)ためには、タンクに水が入っている(＝わかること)がやらやことばがある)ことが必要ですが、何より大事なのは引き金を引く(＝人に伝えようとする)パワーを育てることです。

だから、趣味やお出かけのおしゃべりは大盛り上がりなのね！



岐阜県特別支援学校教育研修会オンライン特別研修会
「STをご存じですか？教育の場での役立ち職種」
講師 中川信子先生 より

ことばを書くこと

音声言語	音のレベル
就学前	単語音のレベル
	文のレベル
文字言語	文章のレベル
	文字のレベル
就学後	単語文字のレベル
	文のレベル
	文章のレベル

『長所活用型指導で子どもが変わる』
藤田和弘監修 図書文化 より

子供は、音を聞くことから始まり、それを自分で表現していくようになります。その後、単語→文→文章と、徐々に音の大きな固まりを理解したり表現したりすることができるようになっていきます。この「聞く、話す(音声言語)」のほかに、就学後に「読む、書く(文字言語)」の学習が始まります。音声言語の時と同じように、文字→単語→文→文章と徐々に進んでいくのです。すんなりと進んでいくお子さんもいるし、一つ一つのレベルアップに時間のかかるお子さんもいます。「文章を書く」のは最終レベルのとても難しいことなのです。

音声言語から獲得していくので、発音に誤りがあると文字を書き誤ることが多くあります。発音が改善されると書き誤りも減っていくことが多いです。



脳の働きと ことばのビル

大脳皮質

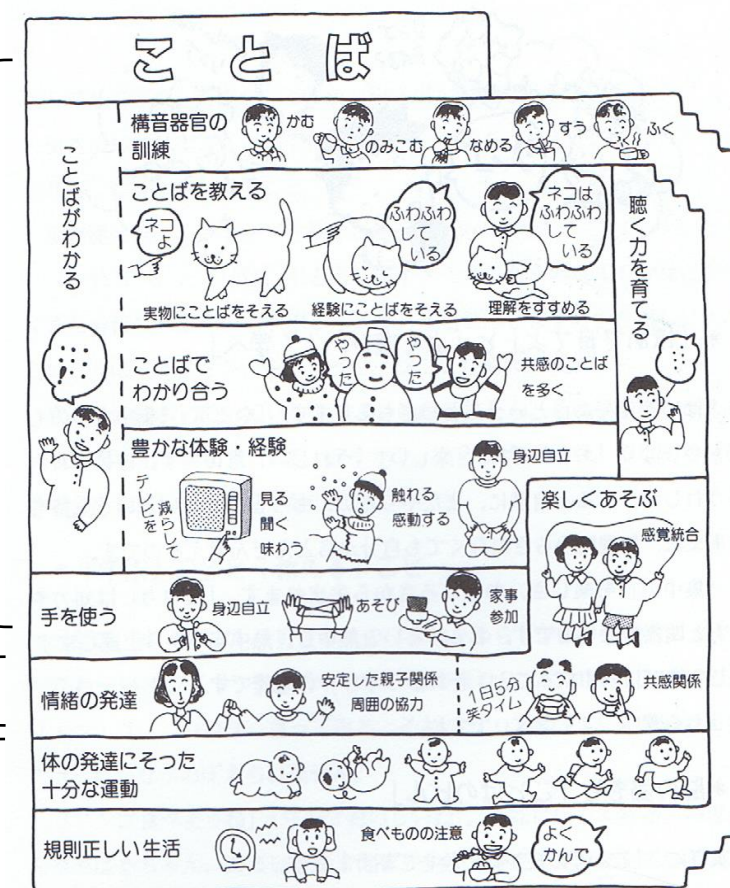
「知力」や「ことば」を働かせるところ

大脳辺縁系

「こころ」の働きの元じめ

脳幹

「からだ」の動きや生命の働きをつかさどるところ



脳の仕組みとことばの発達を関連づけると、上のような「ビル」に例えて説明することができます。「ことば」だけにとらわれるのは、いきなり一番上の階をつくらうとするようなものになります。まずはビルの土台となる「規則正しい生活」や「体の発達に添った十分な運動」があり、これらの基礎づくりに力を入れることが、しっかりとしたことばづくりにつながります。次は「情緒の発達」で、楽しい食事、嬉しい遊び、おもしろい体験、自分の気持ちをわかってもらえる安心感、大好きな人がいる喜びなどがこころを育てていきます。最上階の「ことば」が豊かなものになるためには、こうしてじっくりビルを建てていくことが大切なのです。

簡単なように感じられますが、実はとても高次な脳機能である「ことば」。生活の中で少し意識するだけでも変化があるかもしれません。できることから少しずつ実行してみましょう。

『ことばの遅い子』中川信子著 ぶどう社 より

これらの記事にあるように、ことばの教室でも「伝えたい気持ち」「嬉しいあそび」「わかってもらえる安心感」などを大切にしながら、ことばの課題の改善だけに限らず、その子の育ち全体を支えていけるような指導をしていきたいと思っています！



随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111 (代表)
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017 (直通)

